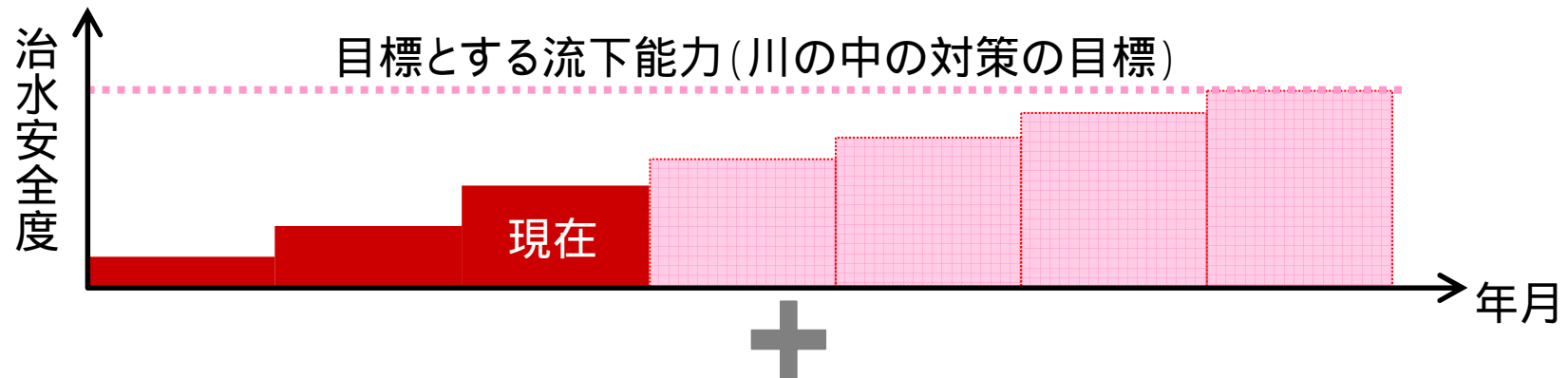


3-2 しがの流域治水

～ 流域治水で安全性を高めるイメージ～

これまでの対策(従来の治水安全度(河川での流下能力)を高める対策)

- 河川整備(ダム建設や河川改修)の進捗により流下能力は向上し、氾濫する頻度は減少。しかし、目標到達にはさらに長時間を要する。



流域治水対策(あふれた後の生命・財産の安全性(減災安全度)を高める対策)

- 氾濫の頻度は減少する一方で、地域防災力の低下、土地利用の高度化等により、水害に対して流域(氾濫原)は脆弱化。そのため、万一氾濫した場合には、壊滅的な被害が生じる恐れが大きくなっている。

